

学校教育目標	心豊かで たくましい 広い世界に生きる 人間の育成
目指す学校像	地球規模で考え、足元から行動する生徒の育成
重点目標	1 学習の基盤となる資質・能力を育成する学習指導の充実 2 安心・安全な学校生活を目指し、自尊感情を高める生徒指導・教育相談と学校行事の充実 3 コミュニティ・スクールの着実な推進と保護者・地域との連携強化 4 安全・安心で学べる教育環境の整備と危機管理意識の醸成 5 SDGsの実現を目指したESD(持続可能な開発のための教育)の研究実践による教職員研修の充実

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学びの質の向上に関する取組

心の子どもの発達やサポートに関する取組

地域とともに関することに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

学 校 自 己 評 価		年 度 目 標		年 度 評 価		学校運営協議会による評価	
年 度 目 標		年 度 評 価		年 度 評 価		実施日令和8年2月5日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	(現状) ○令和6年度全国学力・学習状況調査では、全国、市平均よりやや低い。しかしながら質問調査では、「授業で学んだことを次の学習や実生活に結び付けていますか」では、全国、県を大きく上回っている。 ○授業中多くの生徒は真面目に取り組んでいるが、教科や内容によって個人差が大きい。 (課題) ○全国学力・学習状況調査の結果から国語、数学ともに多くの領域等別・観点別調査において課題が見られる。 ○学校評価で「授業でわかった・できた」の項目で生徒と保護者の認識の相違が見られる。	分かる授業による基礎学力の定着	①基礎学力を向上させるために授業として位置付けて取り組む。 ②全教員が分かる授業を実施し、生徒の学習意欲を高め、知識・技能の習得を図る。	①基礎学力定着データを5回以上設定したか。 ②学校評価アンケートの「授業でわかった・できた」の評価項目で生徒・保護者の肯定的な回答90%以上。	①基礎学力定着データを8回実施した。 ②学校評価アンケートにおいて、「授業でわかった・できた」の実感でできた回答の割合は、生徒93.8%、保護者71.9%であった。	B	○全国学力・学習状況調査等の結果、生徒の学力の定着に課題が残る。
		ICTを活用した主体的・対話的で深い学びの授業実践	①授業や宿題でスタディサプリやドリルパーク等を効果的に活用し、基礎学力の定着を図る。 ②1人1台端末を活用し、思考を大切に授業実践を全教科で実施する。	①全ての生徒がスタディサプリを活用しているか。 ②「学びの指標」探究的な学びについて、生徒評価の平均が「3.2」以上となっているか。	①授業や朝の時間帯を利用して、全生徒が活用することができた。 ②「学びの指標」探究的な学びについて、生徒評価の平均は3.1だった。	B	○学校の授業の取組について、具体的な様子を、発信し、学校公開や各種たより等で発信し、日々の生徒の学習の様子について保護者にわかりやすく伝えていく。 ○家庭学習充実について家庭への啓発とICT活用を引き続き進めていく。 ○来年度も引き続き、全教職員が研究授業(公開授業)を実施し、教員が互いの授業を見合い、意見を交換することで学習指導の工夫・改善に取り組んでいく。
2	(現状) ○心と生活のアンケート結果から、自己肯定感の低い生徒が見られる。 ○日頃の生活の様子から、ストレスや不安感、人間関係のトラブルなどを抱えている生徒も少なくない。 (課題) ○自己肯定感の低い生徒が安心・安全な学校生活を送れるよう、学校行事や授業を通して生徒一人ひとりの達成感や達成感、自己有用感が感じられるよう教育活動を工夫する必要がある。 ○いじめの撲滅と不登校生徒の減少に向けて、組織的に積極的な生徒指導・教育相談体制の更なる充実が必要である。	自尊感情を高める生徒指導・教育相談の体制の充実	①毎週開催する生徒指導委員会及びいじめ対策小委員会、教育相談委員会で情報共有のみならず生徒一人ひとりの対応を協議し組織的に対応する。 ②生徒一人ひとりに寄り添い、自己肯定感を高められるような声掛けや2者面談を行う。	①学校評価アンケートの「相談事や悩みを相談できる人がいる」の評価項目で生徒・保護者の肯定的な回答85%以上。 ②心と生活のアンケート及び2者面談を各学期1回以上開催することができたか。	①学校評価アンケートの「相談事や悩みを相談できる人がいる」の評価項目で、生徒91.5%、保護者90.6%の肯定的な回答が得られた。 ②毎学期の初めに心と生活のアンケートを実施するとともに2者面談を実施し、ケースによって保護者と連携することができた。	A	○生徒との信頼関係の構築を大切にし、生徒の心情に寄り添った指導に徹する。生徒の日々のコミュニケーションやスクールダッシュボード、心と生活のアンケート、面談などを通して生徒の状況を把握し、教育相談体制や生徒指導体制を充実させていく。
		自己肯定感を高める学校行事や特別活動の実施	①生徒が達成感や達成感を感じられるように生徒主体に取り組む学校行事や特別活動(体育祭、合唱コンクール、文化発表会、修学旅行、校外学習等)を行う。 ②生徒会主催のSDGs実現のための具体的な活動に取り組む。(服のチカラプロジェクト等)	①学校評価アンケートの「学校行事に積極的に取り組んでいますか」「学校生活が充実したのになってますか」の評価項目で生徒・保護者の肯定的な回答90%以上。 ②服のチカラプロジェクト、JRC認証式、ユネスコスクールとの連携等、生徒がSDGs実現のための取組を実施することができたか。	①学校評価アンケートの「学校行事に積極的に取り組んでいますか」「学校生活が充実したものになってますか」の評価項目において生徒90.7%、保護者89.0%の肯定的な回答が得られた。 ②生徒が主導となって服のチカラプロジェクト、JRC認証式、ユネスコスクールとの連携等を行うことができた。	B	○教育課程の工夫や指導体制の整備をおとして、引き続き生徒が学校生活を「楽しい」と感じられる学校の環境を整えていく。 ○SDGs実現のための取組を生徒主導で引き続き実施し、多くの生徒が達成感や達成感を味わえるような教育活動を推進していく。
3	(現状) ○学校運営協議会で策定した「認知症サポーター養成講座」の開催など、それぞれの立場で協力できている。 ○地域の社会教育施設五反田会館が開催する文化祭等で生徒の発表の場を定期的に設定している。 (課題) ○生徒が主体的に地域で活動できる場を増やすことが課題 ○土日の部活動地域展開が実施されたことによる課題の整理と解決策の健闘	・学校から発信する情報の充実と学校内外との関わり方の充実	①学校発信の情報の充実と学校公開を推進し、行事や授業等、公開できる場面を増やし、教育活動の理解を深める。 ②教職員が地域と連携しやすい環境を整えるとともに、地域への生徒の積極的な参加を促す。	①ホームページの更新を定期的に行うとともにスクリーン等を活用して月に1回以上学校からの情報を発信する。 ②地域の催し(五反田会館文化祭、老人会、ふるさと発見子ども祭り、見沼区ふれあいフェア等)の交流会への参加生徒数130名以上の参加。	①ホームページやスクリーン等を活用して、各種便りや連絡等、情報を頻繁に発信することができた。 ②五反田会館文化祭、老人会、ふるさと発見子ども祭り、見沼区ふれあいフェア等地域の催しへ述べ180名の生徒が参加をした。	B	○学校だより、学校ホームページ、スクリーンを活用して地域や保護者へ積極的に情報を発信していく。たより等をただ載せるのではなくデジタルの利点を活かして発信する内容を工夫していく。 ○引き続き、地域で活躍する生徒、地域で育てられる生徒を目指してボランティア活動を推奨していく。
		・部活動地域展開に関する課題が整理できたか	①、部活動地域展開に向け、仮称「YAHATAクラブ」を設立する。 ②部活動や地域行事等新しい支援や協力の形を研究していく。	①仮称「YAHATAクラブ」を設立することができたか。 ②学校評価アンケートの「部活動の充実」の評価項目で生徒、保護者の肯定的な回答80%以上。	①仮称「YAHATAクラブ」の設立にむけて、教職員の希望に配慮した指導体制を整備することができた。 ②学校評価アンケートの「部活動の充実」の評価項目において、生徒87.9%、保護者84.8%の肯定的な回答が得られた。	A	○年度途中の統括団体の変更に伴い、教員、保護者とも重複した手続きを踏む必要があった。 ○引き続き地域と協力し、学校で学んだことを地域に発信するとともに、地域の催し等に参加する場を設定していきたい。
4	(現状) ○環境委員会で花植えや水やりを行ったりPTAが協力してトイレ清掃などを行ったりしている。 (課題) ○生徒総会等を活用し、生徒の自主的な活動を振り返り、生徒が主体となる学校づくりを推進する必要がある。	・安心して学べる学習環境の整備 ・美しい環境づくり	①管理職、事務主事による予算執行についての財務ミーティングを実施し、学校長マネジメント経費等、効果的で効率的な予算運用を図らせる。 ②専門委員会の活性化と業務主査と連携した環境整備を行う。	①毎月財務ミーティングを行い、予算の執行状況を把握できたか。 ②学校評価アンケートの「校内の環境美化」の評価項目で生徒、保護者の肯定的な回答80%以上	①毎月財務ミーティングを行い、予算の執行状況を把握することができた。 ②学校評価アンケートの「校内の環境美化」の評価項目で生徒92.6%、保護者83.0%の肯定的な回答が得られた。	A	○予算の適切な運用をしながら、安全・安心で学べる学習環境の整備をすすめる。 ○引き続き花植えやトイレ清掃、落ち葉掃き等をPTAと連携して行っていく。
		新しい教育情報の収集に努めているか。	①全国的な研究会、研修会、講演会へのオンライン参加も含め積極的に参加。 ②他の教員の授業を参観し、助言し合える機会を設け、授業改善を促す。	①教職員人事評価、研修に関する自己評価Aの教職員が50%以上。 ②各教科等で年1回以上ICTを活用した研究授業と研究協議を実施。	①教職員人事評価、研修に関する自己評価Aの教職員は50%を超えることはできなかったが、他校の研究発表会、講演会等に参加するなど一定の成果が得られた。 ②各教科等で年1回以上ICTを活用した研究授業と研究協議を実施することができ、計画訪問等で指導主事等から御指導をいただいた。	B	○教職員の学ぶ意識と組織力の向上のため、研修やOJTを充実させ、学び合いながら資質能力や指導力の向上に努める。 ○お互いの授業を見合う時間を設定すること授業力が向上できるよう取り組んでいく。
5	(現状) ○働き方改革への理解は進んできたが業務過多で在校時間の長い教員がいる。 ○生徒一人ひとりに寄り添って対応する教員が多い。 (課題) ○教えるから支援(伴走)、ファシリテーターへ。 ○ICTを活用した個別最適な学びや協働的な学びの時間の確保。 ○業務のより一層の軽減。	ESDの研究の推進	①外部講師を招聘した研修会や校内の研究組織を活発化させ、ESDの研究を推進していく。	①外部講師を招聘した研修及び校内研修を5回以上開催し、教員の共通理解を図ることができたか。	①外部講師を招聘した研修及び校内研修を5回以上開催し、教員の共通理解を図ることができた。	B	○ESDの研究推進に向けて、教科横断的な取組として、全ての教科でESDの視点に立った実践を行っていく必要がある。

・概ね適切な自己評価である。
 ・基礎学力の定着という課題に対し、教員が一体となって授業改善や個別の補充指導に粘り強く取り組んでいる。

・概ね適切な自己評価である。
 ・不登校傾向にある生徒に対し、別室登校やICTを活用した支援など、柔軟な対応がなされている。学校に登校できない生徒へ対して孤立させない体制づくりを今後も継続していってほしい。
 ・これからも生徒主導の取組を継続していただきたい。

・概ね適切な自己評価である。
 ・認知症サポーター養成講座については回を重ねるごとに内容が改善・発展しており、学校・地域の連携がより強固なものとなった。今後もこの良い伝統を継承・発展させていってほしい。

・概ね適切な自己評価である。
 ・生徒たちが、安心して学習に専念できるよう、老朽化した設備の計画的な更新や、環境美化が組織的に行われている。

・概ね適切な自己評価である。
 ・生徒一人ひとりの多様性を尊重し、寄り添いながら指導に当たる教職員の熱意も今後も維持・発展させてほしい。